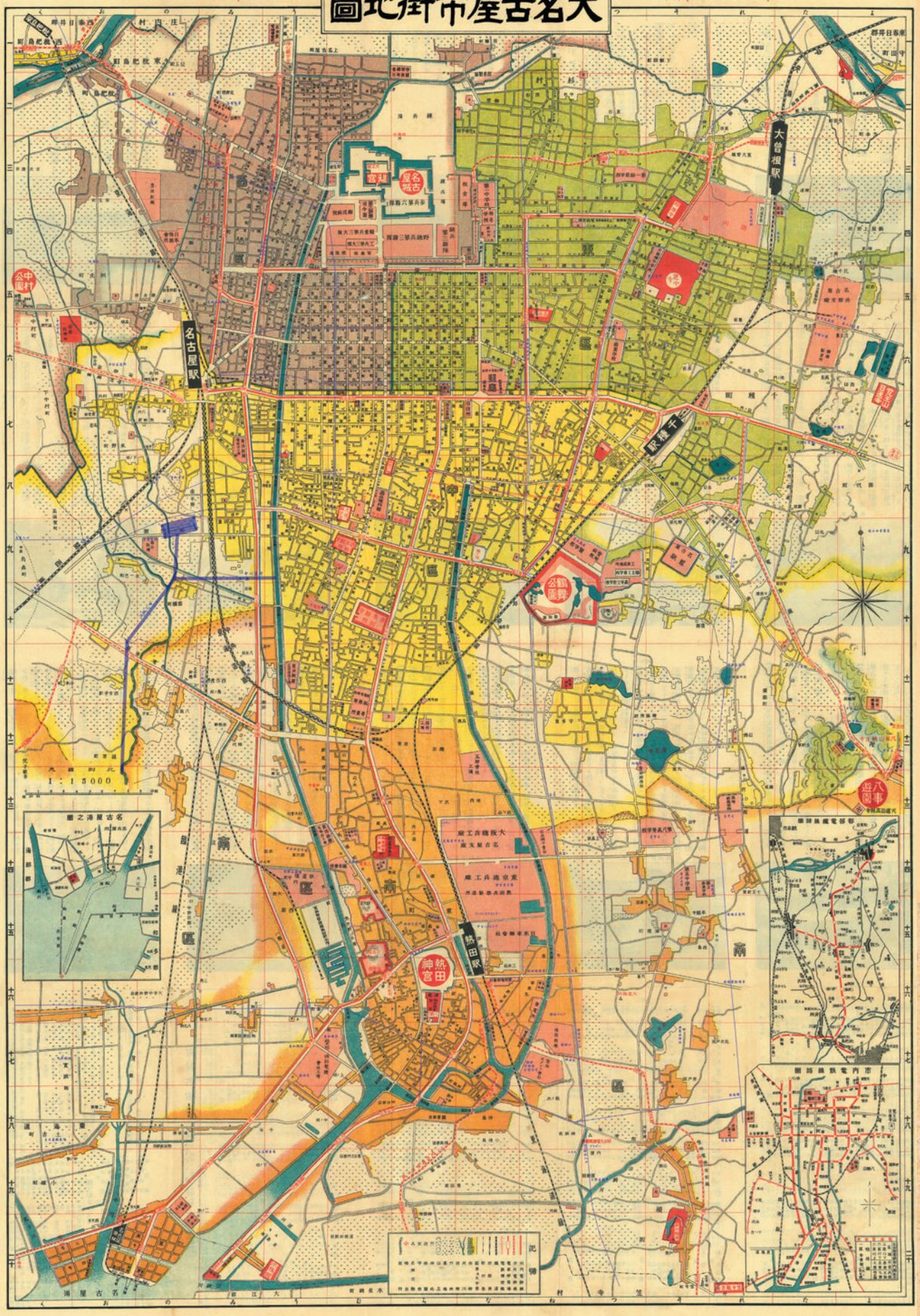


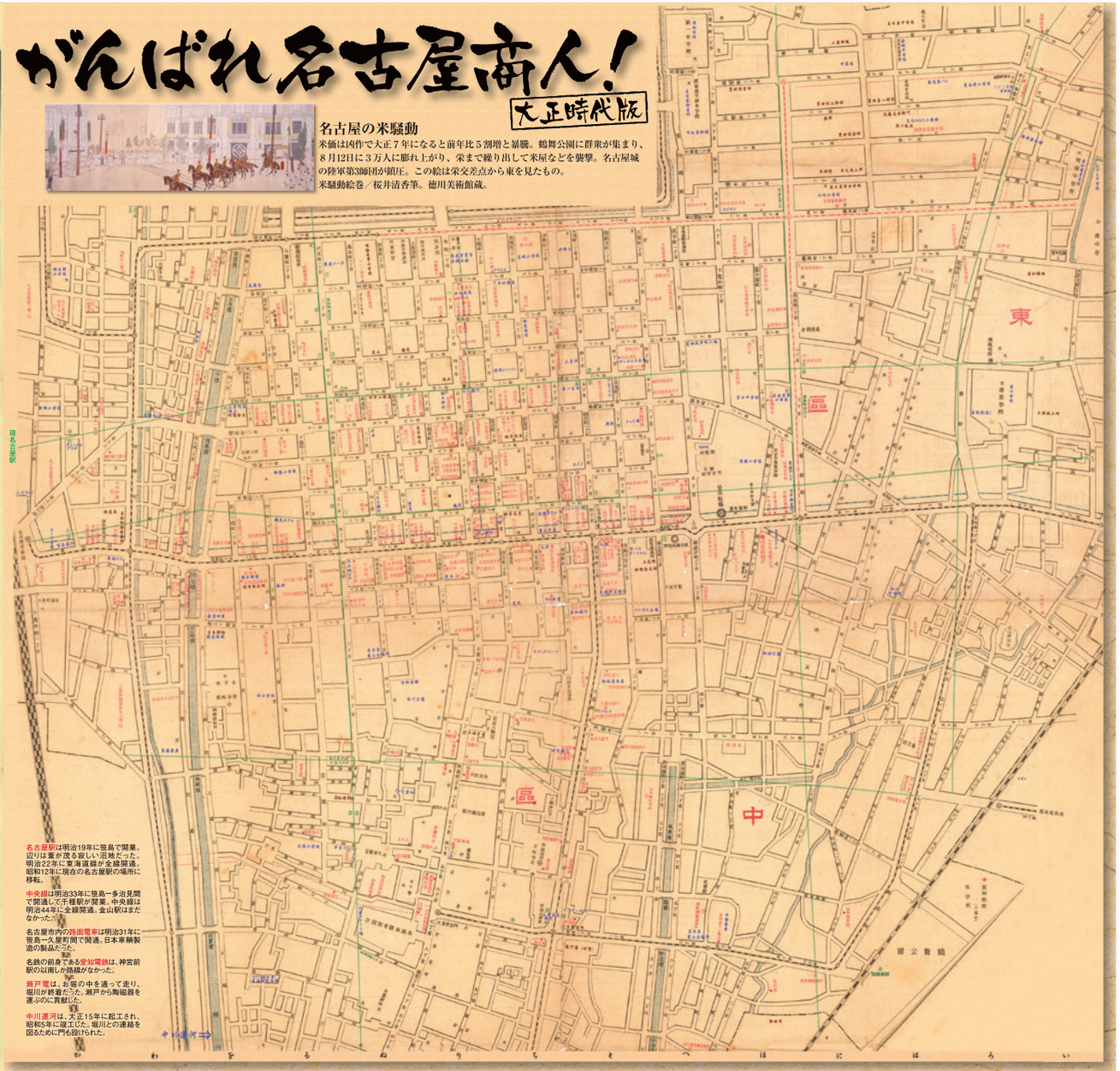
がんばれ名古屋商人！

大正時代版

名古屋の米騒動

米価は凶作で大正７年になると前年比５割増と暴騰。鶴舞公園に群衆が集まり、８月12日に３万人に膨れ上がり、栄まで繰り出して米屋などを襲撃。名古屋城の陸軍第3師団が鎮圧。この絵は栄交差点から東を見たもの。

米騒動絵巻／桜井清香筆。徳川美術館蔵。



名古屋駅は明治19年に笹島で開業。辺りは葦が茂る寂しい沼地だった。明治22年に東海道線が全線開通。昭和12年に現在の名古屋駅の場所に移転。

中央線は明治33年に笹島～多治見間で開通して千種駅が開業。中央線は明治44年に全線開通。金山駅はまだなかった。

名古屋市内の路面電車は明治31年に笹島～久屋町間で開通。日本車輌製造の製品だった。

名鉄の前身である愛知電鉄は、神宮前駅の近南しか路線がなかった。

瀬戸電は、お客の中を通って走り、堀川が終着だった。瀬戸から陶磁器を運ぶのに貢献した。

中川運河は、大正15年に起工され、昭和5年に竣工した。堀川との連絡を図るために門も設けられた。

熱田神宮と東海道線との間には運河があった。現熱田図書館やパレマルシェはその埋立地の上に建っている。

日清戦争の戦役記念碑は高さ22㍍、砲弾スタイルで、現中区役所の交差点（ヘ～七）にあったが、大正9年に覚王山に移された。

陸軍省の東京鞄兵工廠熱田兵器製作所（な～十四）は明治37年にできた。また兵器工廠は現千種公園近辺（た～六）にも造られた。

名古屋商業会議所（現商工会議所）は、明治29年に栄町7丁目で会館（へ～七）を建築した。大正11年に大池町（へ～十三）に移転した。会頭は、奥田正香（おさか）が明治26年から長期にわたり務めたが、遊郭を稲永に移転する疑獄事件に巻き込まれて辞任した。後任は材徳木材の鈴木捷兵衛（そうべえ）が就任し、大正9年までその地位にあった。その後は上遠野富之助（かどの とみのすけ）が就任し、昭和2年まで務めた。

大須観音の近くで明治9年に遊郭が公認され「旭郭」となった。若松町、花園町（ぬ～十一）に多数の席貸茶屋が並んで、最盛期には妓楼105軒、娼妓318人に達した。大正13年に中村大門（お～六）に移転した。

大正時代の一流料亭は、河文（り～四）のほか、大又、魚半（百春楼）、近直、御納屋、川喜が代表的なところで、俗に魚の棚通と呼ばれたところにあった。また大衆的な店としては東鮒本店、宮厚、八千久（ぬ～十二）も人気があった。

豊田佐吉は、大都市の一流の財界人が集まって明治40年に設立された豊田式織機（島崎町。現中村区名駅二丁目32番3号。ゐ～五）で常務になっていたが、辞任に追い込まれた。失意のうちに米国視察に行き、帰国後の明治44年には栄生町で3千坪の土地（現ヨタテクノミュージアム。の～三）を借り入れて自動織布工場を作った。この豊田自動織布工場は改組し、大正7年に豊田紡織（株）となる。大正10年には上海でも豊田紡織廠を設立した。大正11年には刈谷で10万坪の工場用地を買収。大正13年には無停止杼換（ひがえ）式豊田自動織機（G型）を完成。大正15年には豊田紡織から分離独立して豊田自動織機製作所が誕生した。豊田自動織機製作所は、昭和8年に自動車部を作り、それが昭和12年に独立して日ヨタ自動車工業（株）となった。事業に成功した後に建てた家は、現在ダイキン工業になっている（ほ～一）。

豊田喜一郎は、湖西の祖父母によって育てられたが、3歳の時、再婚した佐吉に呼び戻され、武平町3丁目15（へ～五）で暮らした。高島尋常小学校（現東桜小学校）、旧制明倫中学（現県立明和高校 当時と場所が異なり現在の県立商業高校）（ゐ～二）で学んだ。大正元年、明倫中学の4年生の頃、喜一郎は上級学校への進学を望んだが学費問題に直面していた。建設中だった栄生工場の現場に何度も足を運び「父のこの工場さえうまくいったなら」と祈っていたという。大正9年に東大工学部を卒業し、大正10年に豊田紡織に入社した。大正15年に豊田自動織機製作所が設立されると常務に就任。家は白壁だった（ほ～一）。

松坂屋の伊藤次郎左衛門家は、明治43年に（株）いとう呉服店を設立し、子の祐民（すけたみ）が社長に就任。茶屋町（り～三）から出て、栄町（現丸栄スカイル 昔の名古屋市役所の跡地 と～七）で名古屋初の本格的なデパートをオープン。現本店の南大津通に移転したのは大正14年。

鉄砲町の岡谷鋼機（り～八）は、大正時代に入ると10代目の清治郎が実際の経営を取り仕切るようになっていた。清治郎は大正15年には10代目襲名した。日本の重工業は第1次世界大戦の勃発後に飛躍するが、それを背景にして業績を伸ばした。また、社業のほかにも愛知時計、名古屋製陶所、愛知物産組、大隈鉄工所などの経営に関与した。昭和8年には名古屋商工会議所の会頭に就任。なお、伊藤祐民と清治郎は従兄弟にあたる。

材徳木材（も～六）は、明治8年に8代目鈴木捷兵衛が家督を継ぎ、家業の再建に成功した。奥田正香の後を受けて大正2年に名古屋商業会議所の会頭に就任。関与した金社は、愛知時計電機、日本車輌製造、愛知木材、名古屋倉庫、名古屋瓦斯など数え切れない。名古屋市会議長も務めた。上前津に鼎門屋（ち～十三）という広大な別荘を持っていた。その建物は移築されて、現在は三菱東京UFJ銀行が瑞穂区で迎賓館「暮雨巷」として活用。

滝兵右衛門商店（現タキヒヨー り～五）は、明治45年に法人化して（株）滝兵商店となり、初代社長に5代目の信四郎が就任。信四郎は第1次世界大戦後の繊維製品大暴落を乗り切って事業を伸ばした。瀧都に料理旅館「常盤館」を作り、それが瀧都プリンスホテルになっている。また、瀧笑業学校を創設した。南鶴治屋町2に5千坪の豪邸（と～九）があった。「瀧家五世御遺勲29カ条」を定めて「神を敬い祖先を崇める事」などと書き残して昭和13年に亡くなった。

瀧定は、初代が明治36年に死去し、長男が2代目定助になった。2代目は明治39年に瀧定合名会社を設立。社業のほかにも、名古屋銀行や日本車輌製造、東陽倉庫でトップに就任するなど財界のリーダーになった。本店は東万町3丁目（り～五）にあり、現本社所在地（り～七）に移ったのは昭和11年のこと。

「日本の電力王」と呼ばれる福澤桃介は、名古屋電燈の株を明治42年に買い占めて名古屋に乗り込んだ。地元の反発に嫌気がさして辞任して名古屋を後にしたが、大正2年に常務になって返り咲いた。ダム建設に邁進し、関東大震災の影響で金融の逼が閉ざされた大正13年には、対日感情が悪化しつつあった米国に乗り込み、外資導入に成功。その助けで完成した大井ダムが安価な電力を供給できるようになり中部地区のインフラ整備に貢献。大同特殊鋼などの一流企業を次々に設立し「名古屋発展の父」と呼ばれる。後年は「二葉御殿」（に～一）を建てて川上貞奴（さだやっこ）と同居し、夫婦同然に。

川上貞奴にとり桃介は初恋の人だった。女優を引退した後、大正7年から桃介と同棲した。2人並んで公の場に姿を現し、貞奴は大井ダム工事の際もバイクを乗り回し現場を訪れ、他の社員が戻るまで待ち続けていた。2人が名古屋市内で住んだ邸宅は「二葉御殿」と呼ばれ、政財界などを各方面の著名人が集うサロンとなった。現在は復元・移築され「文化のみち二葉館」（は～二）となっている。

服部兼三郎は、日露戦争が始まると大隈邸出して、綿糸・綿布の大手にのし上がった。店は宮町1丁目にあった（ち～六）。豊田佐吉を支援していて、2人は富沢町4丁目の「花月」（ち～七）で夜を明かすまで呑むことが多かった。だが第1次大戦後の相場暴落で痛手を受け、大正9年に自殺。その後は総支配人の三輪常次郎が再建に取り組んだ。それが現在の興和。

大隈栄一は、大隈鉄機商會（現オークマ）の創業者。石町3丁目で住居兼工場を借り、30年に大隈鉄機商會を創業。富士塚町3丁目（ほ～五）で6百坪の土地を買い、37年に住居兼工場を建築。昭和20年に戦災で焼失するまで、そこで居住。工作機械の分野には日露戦争から本格参入。大正7年には（株）大隈鉄工所設立。

盛田善平は敷島製パンの創業者。明治22年に半田でビール工場を造り、カブトビールという名で売り出した。関西府県連合共進会が開かれた際に、洋館2階建ての ビアホール（を～八）を作ってビール売を堪能させた。第1次世界大戦で東区出来町にドイツ人俘虜収容所ができ、その食事をみてパン製造を思い立った、大正8年に敷島製パン（は～一）を創立。

矢田嬉は、三井銀行の名古屋支店長。支店を伝馬町（ぬ～六）から広小路（ぬ～七）に移転して再建した。豊田佐吉など将来性を見込んだ人物・企業への投資を惜しまなかった。退職後は名古屋に関ヶ種本町倶楽部（に～二）を作った。豊田利三郎、福澤桃介らも訪れ賑わった。のちに「中部財界のご意見番 大久保彦左衛門」と呼ばれた。

森村組は、明治37年に日本陶器合名会社を設立し、現西区則武新町（の～四）で工場を建設。大正8年には、がいし部門を分社して日本碍子を設立。昭和11年には、日本碍子から分社して日本特殊陶業を設立。

愛知時計は、日露戦争以降は兵器製造にも乗り出した。大正元年に東橋町から東川端町9丁目に移転。更に大正11年に熱田千年（ち～十七）に移転。その規模は現在よりも大きく、現熱田高校もその敷地内だった。青木鋼太郎は、大正15年に社長に就任し、軍需企業として発展させた。

左図「大名古屋市街地圖」（大正11年製々堂旅行案内部發行）　右図「名古屋概要地圖」（大正3年扶桑新聞社發行）
左図は、著者が青文字で現代施設を書き込んだ。
右図は、著者が青文字で現代施設を書き込んだ。また大正時代や昭和初期の地図を参考にしながら戦前の施設を茶色で書き込んだ。

発行元：㈱北見式賃金研究所　社会保険労務士法人北見事務所　北見昌朗　http://www.tinjin.jp/
名古屋の旧町名を復活させる有志の会　発足！　http://www.fukkatu-nagoya.com をご覧下さい。
著　書：「愛知千年企業　江戸時代編」（中日新聞社　平成25年発売）　「愛知千年企業　明治時代編」（平成25年発売）

非売品